

六二九三 「形理」

一氣は通塞す、

六二九四

大物は活立す、

六二九五―九六

大物は已に立てば。則ち小は其の中に散ず。蓋し

六二九七

物は體に依る。

六二九八

體は形に成る。

六二九九

形は位に依る。

六三〇〇

位は物に成る。

六三〇一

外を圓にして内を虚にすれば、

則ち以て物を煮る可し、

六三〇二

實を内にして外を鋭にすれば、

則ち以て甲を刺す可し、

六三〇三

同じく是れ鐵なりと雖も、形 異なれば則ち用 同じからざるなり、

則ち

六三〇四

外を圓にして内を虚にすると雖も、而も之を造るに木を以てすれば、

則ち

六三〇五

水を受く可くして、火に當てる可からず、

則ち

六三〇六

内を實にして外を鋭にすると雖も、而も之を造るに土を以てすれば、

則ち

六三〇七

弄す可くして、而も兵と爲す可からず、

六三〇八

其の形を同じくすと雖も、而も

六三〇九

體 異なれば則ち用は同じからざるなり、故に

六三一〇

同一の土泥は、之を瓦にすれば則ち風雨を覆う可し、

六三一〇

之を甕にすれば則ち酒漿を盛る可し、

六三一一

同一の木片は、神を模せば而して後に蘋蘩の敬を致す可し、

六三二三

履はきものを削けずりて而しかして後のちに上ど泥でいの汚おを避さく可べし

六三一四

人じんぞう造ぞうに因よりて以もつて天てんぞう造ぞうを窺うかがう。

六三一五

其その轉てんじ持なを爲なすや、形けいの直ちよく圓えんに分わかる、

六三一六

其その山さん水すいを爲なすや、形けいの拗おう突とつに由よる、是こゝを以もつて

六三一七

體たいは必かなず形けいを成なすと雖いえども、而しかも形けいは體たいに非あらざるなり。

六三一八

形けいは必かなず體たいに由よると雖いえども、而しかも體たいは形けいに非あらざるなり。

六三一九

氣きなる者ものは活かつするに依よりて動どうなり、

六三二〇

物ぶつなる者ものは立りつするに依よりて靜せいなり、

六三二一

立りつすれば則すなわち中ちゆう外がは位いを成せいす、

六三二二

氣き體たいは物ぶつを爲いす、

六三二三

其その理りは靜せいに於おいて立りつす、

六三二四

其その氣きは動どうに於おいて活かつす、是こゝを以もつて氣きは理りに由よりて布しく、

六三二五

形けいは氣きに由よりて成なる、

六三二六

理りを以もつてせざれば、則すなわち鬱うつ滄ぼつの活かつを運うんする所ところ莫なし、

六三二七

形けいを以もつてせざれば、則すなわち混こん淪りんの體たいを成せいする所ところ莫なし、

六三二八

混こん淪りんは塊お然うぜんを得えて居おる、

六三二九

鬱うつ滄ぼつは衰こん然ぜんを得えて行いく、

六三三〇

而しかして形けい中ちゆうも亦また自おのず

氣きは理りに依よりて物ぶつを爲なす、

* 六三三〇 1 復元

氣きは理りに依よりて物ぶつを爲なす、

* 六三三〇 2 復元

氣きは理りに依よりて形けいを布しく、

(PB 423)

(I 447a)

六三三一*

故に通經衰ゆえ つうけい こんこん、

六三三二*

塞緯塊塊そくい おうおう、形理けいりの祖そなり。

六三三三

形理けいりは痕こんを見あらわして。物ぶつに従したがいて正斜せいしやを成なす。

六三三四

正中せいちゆう、直圓ちよくえんは正せいを爲なし、規矩きくは斜しやを爲なす、

六三三五

斜中しやちゆう、塊岐かいぎは正せいを爲なし、邪曲じやくよくは斜しやを爲なす、

六三三六

直圓ちよくえんは正せいにして形理けいりを混成こんせいす、

六三三七

規矩きくは斜しやにして形理けいりを絜立せんりつす、

六三三八

直矩ちよくくは理りを爲なす、

六三三九

圓規えんきは形けいを爲なす、然しかり而しこうして

六三四〇

散さんずる者ものは其その理りを邪曲じやくよくにす、

六三四一

其その形けいを塊岐かいぎにす、

六三四二

塊おなる者ものは圓えんの地ちなり、

六三四三

衰こんなる者ものは直ちよくの本ほんなり、

六三四四

塊岐かいぎは則すなわち直圓ちよくえんの變へんなり。故ゆえに

六三四五

直矩ちよくくの理り、散さんの邪曲じやくよく、

六三四六

圓規えんきの形けい、散さんの塊岐かいぎ、

六三四七

動どうなる者ものは理りに循したがわざる能あたわず、

六三四八

靜せいなる者ものは形けいを成なさざる能あたわず、

(PB 424)